

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大 学 名	立教大学
整理番号	B19
構 想 名	グローバルリベラルアーツ×リーダーシップ教育×自己変革力 ー世界で際立つ大学への改革ー

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

（総括評価） A	十分な取組状況で事業目的が達成され、今後も持続的な発展が期待できる。
（コメント） 事業期間全体において、創立以来一貫して取組んできたリベラルアーツ教育や、先進的なリーダーシップ教育の取組みをさらに改良し、大学の国際通用性を高めるため、「カリキュラム」、「学生の意識」、「ガバナンス」を軸として改革が進められたものとなっている。特に「カリキュラム」改革において、学生の興味・関心に応じて専門科目に加え、海外プログラムや正課外活動を含む10の学びを自由に組み立て、自律的に目標に向かって進む学びのスタイルである「立教学士課程プログラム」を基盤として、専門+αの力を身に付けるとともに海外体験を通して国際的な視野を広げる「グローバル教養副専攻群」、英語のみで学位取得が可能な「Global Liberal Arts Program (GLAP)」等を体系的に展開したことで効果が最大化していることは高く評価できる。さらにはこれら実績を活用したプログラム開始により、アジアトップ大学と「リベラルアーツ教育」を共同テーマとした連携事業を質の保証を伴った形で交流が進められており、アジアにおけるブランド力向上に寄与していることも大きな成果である。 また、大学が策定・公表した各種の基本方針やビジョンに、本事業の構想や取組みを重点的なものとして位置付け、全学的な共通認識と意思決定の下に事業展開されたことは評価に値する。今後においても、「立教未来構想」（2024年策定）にて本事業の構想や取組みを踏まえた国際化の継続と体制維持が示されており、財源も積極的に確保されているため、持続的な発展が期待できる。 一方で、「グローバル教養副専攻」の実施は全学部生を対象としているところ、修了者が限定的であり、制度の趣旨の浸透や学生の意識改革と連動して本施策の改善と拡大が必要であろう。大学院レベルでのカリキュラム改革として展開された「国際連携大学院プログラム」においても、英語のみで修了できる研究科横断型のものとして特徴的ではあるが、こちらもコースが限定的であるため、さらなる拡充を望みたい。これらに加え、各種の成果指標については依然として未達のものが見られる。大規模総合私立大学で全学的に施策を展開することの困難さは理解するが、明確な点検と今後の指針の着実な実施により改善が望まれる。 最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。	